

教材・支援機器活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成(29)年度 スイッチコントロール機能(iPadのアクセシビリティ)を用いたタッチ操作および書字の代替手段確立
授業について	教科名等	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input checked="" type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他( )
	単元・題材名	タッチ操作に関する代替手段の確立
	授業の目標	直筆の場合、教員などの補助を受けながら書字を行う必要がある。今後の学校生活および社会生活を視野に入れ、コミュニケーション手段の選択肢の1つとして、タッチ操作をスイッチコントロールにより代替した文字入力の実習習得を目標とする。
	観点別学習状況の評価の観点	<input type="checkbox"/> 「知識・理解」 <input checked="" type="checkbox"/> 「技能」 <input type="checkbox"/> 「思考・判断・表現」 <input checked="" type="checkbox"/> 「関心・意欲・態度」 <input type="checkbox"/> その他( ) タッチ操作に関する代替手段の確立を目指し、1)ポイントスキャン時において、本人の意図と合ったスイッチボタン(プレゼンターマウス)のプッシュが行うことができたか、2)意欲を持ってタッチ操作(文字入力を含む)の習得を目指すことができたか、の2点を主な評価の観点とする。
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない ( 3 )年 ( 4 )人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の課題(特性・ニーズ)	<input type="checkbox"/> 見る <input checked="" type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 読む <input checked="" type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 計算する <input type="checkbox"/> 推論する <input checked="" type="checkbox"/> 運動と姿勢 <input checked="" type="checkbox"/> 日常生活活動 <input type="checkbox"/> 不注意 <input type="checkbox"/> 多動性・衝動性 <input checked="" type="checkbox"/> 社会性・コミュニケーション <input type="checkbox"/> 覚える・理解する <input type="checkbox"/> その他 身体の緊張(麻痺)が四肢ともに強いが、左手でものを握ったり、親指でボタン押すなどの操作を行うことができる。座位姿勢の保持は難しいが、ベルト等での保持により車椅子での姿勢保持ができる。全体の指導場面において、自身のこととして聞くことができないことがあり、また状況に合わない発言や行動が多く見られる。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称と画像	○機器 ・iPad Pro(12.9インチ) ・Lightning - USB 3カメラアダプタ ・Logicool ロジクール プロフェッショナル プレゼンター R400t ○機能 ・スイッチコントロール(アクセシビリティ機能 iOS11標準装備) 
	活用のねらい	Aコミュニケーション支援( <input checked="" type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援( <input checked="" type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input checked="" type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援( <input checked="" type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) タッチ操作(文字入力含む)をスイッチコントロールにより代替することで、学習活動全般を通じて、教員の補助または代筆を必要としていた書字を、自ら行うことができるようになる。そのことにより、自らのタイミングで書類の作成、情報の収集などができるようになることで、自主的・主体的に活動する意識を高めることを目指す。 また、将来の社会参加を踏まえ、様々な代替手段に興味を持ったり、知っておくことで、身体の変化や技術の進展に合わせて、本人に適したものを適宜選択できるようになることを見据えておく。
授業に授業展開支援	授業展開と画像	(1)タッチ操作に関する操作技能および身体の動作性の把握 ・フリースローゲーム(バスケットボール) (2)児童に合わせたフィッティングの実施 ・項目スキャンからポイントスキャンへの変更 ・ビジュアル(カーソルの大きさおよび色) (3)スイッチコントロールによる操作技能の習得 ・オセロゲーム (4)スイッチコントロールによる文字入力技能の習得 ・ひらがな(ローマ字入力による) ・予測入力機能  
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	・当初は機器そのものに興味を持ったものの、スイッチコントロールによる操作は、動きが大きい、タイミングが合わない、などの様子が見られた。深呼吸によるリラックス、タイミングに合わせた発声などにより、徐々に操作を正確に行うことができるようになった。10月当初はオセロゲームを1回終えるのに30分以上を要したが、2ヶ月後には20分、早い時は15分で終えることもあった。 ・文字入力に関しては、基本的な操作はオセロゲームを通じて習得していたためスムーズに移行することができた。また、本人が入力したい文章を頭に持っていたこともあり、自発的な行動につなげることができた。 ・本年度は興味・関心、正確性などを考慮して、スイッチコントロールを選択したが、次年度以降は、音声入力、視線入力など、児童の成長、機器の進歩などに合わせて、適宜選択肢を広げていき、本人にとって、より良いものを選択するために余地を残していく。